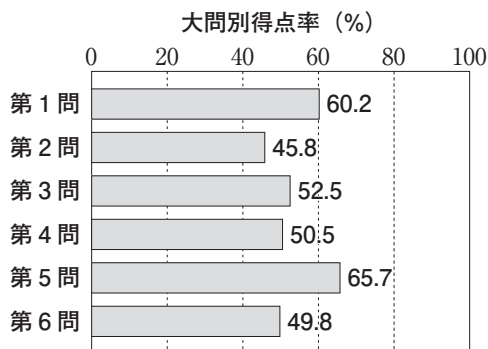
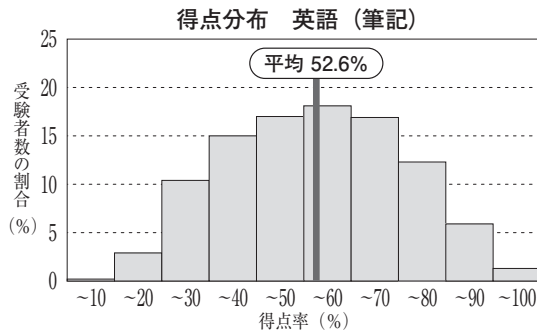


## 英語 (筆記)

来年度の本番に向けて弱点補強に努めよう。

## I. 全体講評

今回のセンター試験本番レベル模試の平均点は105.1点であった。毎回のことであるが、最も大切なのは、各自が結果を見て、それを今後の学習に生かすことである。これから受験の準備期間も後半に入るわけであるが、受験生に共通する課題の1つとして語彙力の強化は依然として重要になるだろう。同時に英語力のもう1つの柱である文法の知識も整理しなければならない。今回の場合、第2問と第6問が得点率で50%を下回っていた。第4問も50%台に達するのがやっとであった。文法面、語彙面での不安がないか、各自でチェックしてほしい。また、第6問では無回答率が依然として高めである。最後の方は時間的な余裕を失っていたということであろう。これは速読即答の能力を反映し、さらには語彙力に関係している。問題解消のためには不断の努力が欠かせない。なるべく多くの英文を読みながら、レベルアップを目指してほしい。



## II. 大問別分析

## 第1問 発音・アクセント

注意したいカタカナ英語の影響！

今回の第1問の得点率は60.2%で、まずまずの出来であった。内訳を見ると、Aの発音問題が平均で41.8%、Bのアクセント問題が74.0%と、やや差が目立った。Aでは問1の正答率が10%を切ったのが大きく響いた。ここでは母音字oに対する音の区別が求められているが、正解の①obviousに対して、77.3%の人が③otherを選んでいた。その背景として、②onionや③ovenに対する「オニオン」、「オープン」というカタカナ音声に惑わされたということが考えられる。外来語はしばしば発音・アクセント問題のトリックに使われる。日頃からこの傾向を意識して音読を励行するのがよいであろう。

## 第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

文法力を強化し、整序問題の失点を防ごう！

今回の第2問の得点率は45.8%で、すべての大問の中で最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が44.8%、Bの整序問題が40.5%、Cの応答文完成問題が51.5%だった。今回に限ってはBがやや不振で、小問別に見ると、3問中2問が正答率30%台であった。Aにも正答率が20%台の小問があったが、それはちょっとした語法の問題である。配点の大きさからすると、やはりBでの失点は痛い。ここは文の組み立て方が問われているので、文法力が成否の鍵を握る。こうして見ると、まだまだ文法分野に不安を抱える人が多いようだ。間違えた箇所については、解説を参照しながら関連項目の徹底復習をしてほしい。

## 第3問 文脈把握 (文削除・要約)

全体的な文の流れを確認しよう！

今回の第3問の得点率は52.5%で、およそ平均的な成績だった。内訳を見ると、Aの不要文削除が41.4%、意見の要旨を選ぶBは61.7%だった。Aの

出来がやや悪かったわけであるが、さらに小問別の正答率を見ても、40% 台が2問、30% 台が1問と全体的に物足りなかった。最も正答率が低かった問2では、正解の④よりも②を選んだ人が多かった。それほど込み入った内容とは思えないので、やや意外な結果である。Aの解答にあたっては、不要と思われる文を外してから、再度全体の流れを確認するように心がけたい。間違えた箇所があれば、各自で解説を参照しながら見直してほしい。

#### 第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り 本文の該当箇所を精読しよう！

第4問の得点率は50.5%で、これも今回の中ではほぼ平均的な成績であった。図表を含む説明文を素材としたAについては、平均が55.7%、広告文書を素材としたBは45.3%である。正答率が10%台という小問がA、Bともに1つずつあり、それが大きく足を引っ張ってしまった。それらは、Aでは問1のオーソドックスな内容一致問題、Bも問1の金額計算の問題であった。ここではまず本文の該当箇所を精読し、それを選択肢としっかり照らし合わせる事が第一である。間違えた問題については、よく見直して、つまづいた原因を突き詰めておこう。

#### 第5問 文学的文章の読解

##### この調子でさらに高得点を狙おう！

今回の第5問の得点率は65.7%で、大問別では最も高かった。小問別正答率も50%台から70%台までと非常に安定していた。日誌あるいはブログ形式の連続した文章は新傾向だが、今回は特別読みにくいトピックではなく、じっくり取り組むことができれば、さらに上の結果を期待できたであろう。いつものことだが、このあたりから無回答率が徐々に高くなってくる。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。今後も時間のロスを防ぎながら、この大問をより確実な得点源にしていきたい。

#### 第6問 説明的文章の読解

##### 時間配分を考えて全問解答を目指そう！

今回の第6問の得点率は49.8%で、やはり平均値に近かった。小問別正答率を見ると、40% 台が3問、60% 台が2問のほか、30% 台が1問あった。

極端な出来不出来は見られなかった。この大問としては悪くなかったと言えるだろう。当然ながら、この大問では時間的制約の影響が最も大きい。無回答率も他の大問に比べると高くなっている。これまでも述べたように、まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない人が多いが、時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後さらに効率のよい解き方を身につけて、この最後の大きな大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

### Ⅲ. 学習アドバイス

今回は第4問、第5問について述べておこう。第4問Aの素材文はさまざまな分野の統計データや調査結果を基にした客観的な説明文であり、それに補助資料としてグラフや表が加わる。このような資料を説明するのに用いられる英文は、正確性、客観性を重視した固い文章語となる。ここでは本文と選択肢の厳密な読み比べが求められるので、精読の訓練は欠かせない。苦手な人はセンター試験の過去問や本模試を通じて習熟してもらいたい。Bの素材は広告文書や案内文などの特殊なものである。普通の読解問題のように、本文を最初から順を追って読まなければ理解できないというのではなく、文書の目的とおよその情報の内容や配置がわかれば、細部のすべてに目を通す必要はない。解答に必要な情報を見つけるために、まず設問文を読むのが得策である。また、この問題には金額などの数値情報が含まれ、それをもとにして簡単な計算を求める場合が多い。これについても多くの練習を積んで対応能力を高めてほしい。

第5問では、ストーリー性や主観性に重点を置いた英文に慣れ親しんでおくことが重要である。このような文を読む際には、出来事とその原因や背景、人物の性格や行動とその理由などの総合的な把握が重要な鍵となる。もう1つのポイントは文章の長さである。現行のセンター試験では、第5問の本文は第6問を超えて最も語数が多い。やはり語彙力を充実させるとともに、この種の英文に十分慣れていることが求められる。決して内容的に難しいわけではないので、ここでも「習うより慣れろ」の鉄則が当てはまるだろう。